

大垣市 校務 DX 計画

本市においては、令和5年度までは、大垣市独自のシステムにより、出欠席、通知表、指導要録、学籍、調査書の管理をはじめ、保護者及び教育委員会との連絡ツール機能を、学校管理システムにて運用してきた。

こうした中、令和6年4月からは、岐阜県統合型校務支援システム「Te-Comp@ss」を新たに導入することで、従来の機能に加え、個別教育支援計画の作成や、ワンストップで県へ提出可能な帳票を準備できる出退勤システム、欠席や感染症情報のシステム登録、Web願書出願システムと校務システムを連携させた入学者選抜に係る手続き機能を新たに追加し、校務のDXを進めている。

また、学習者用デジタル教科書の導入状況としては、算数について市内の半数の学校が取り入れている。それに伴い、学校訪問や研修等で、授業における指導者用、学習者用デジタル教科書の活用を推進している。

なお、小学校、中学校及び義務教育学校では、日常的にiPadを使用しており、基本的な操作ができる教員の割合は9割を超えており、校務DX化チェックリストから、次のような成果と課題が見られた。

【教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化について】

授業における課題配信や各種アンケート等の実施において、およそ半数の学校がクラウド化を進めており、紙媒体からの脱却を目指している。

また、端末の持ち帰りを基本とし、各家庭においてもLTE環境の中で使用できるよう、整備してきた。

そのため、家庭学習においても紙媒体のドリル学習の他、デジタルドリル等を活用する学校も多い。

しかし、現時点でも「毎日持ち帰っている」は半数にとどまり、効果的な活用に向けての動きは今後も継続していく必要がある。

また、授業においても教材やテスト等、紙媒体での配付が中心となっている。今後は、小テストや課題配信等、手軽にできるものからデジタル化を進めていくことで、業務の効率化を図りたい。

【学校内の連絡のデジタル化について】

校務用端末と教職員の一人一台端末において、データを授受できるシステムを構築したことにより、資料をクラウド保存することが容易となった。

これにより、職員会議、校内研修等において、職員も一人一台端末を用いてデジタル化された資料を活用している。

また、教職員間や保護者へのアンケート調査等もクラウドサービスを用いることで、業務の効率化や保護者の利便性も高まっており、これによって、データの分析にかける時間を生み出すことが可能となっている。

一方で、諸会議のハイブリット化については、集合型の習慣から脱却できていないが、令和6年度において市主催の研修については、オンライン研修の他、いくつかオンデマンド化を行っており、研修に出席できなかった職員が自分のタイミングで研修を受講できるようにしている。

また、校内における教職員の提出物については、依然紙ベースでの運用が中心となっている。さらに、各種研修における協議もクラウドサービスの活用率は低い。

今年度は、職員の1人1台端末においてファイル共有機能やアプリのアップデートをユーザ自身で行うことができる機能を搭載していることから、職員が授業や業務においての利便性を実感することで更なる活用を目指し、業務改善を推進していく。

今後は、次世代の校務システムの導入に向けた検討を行い、必要に応じてセキュリティポリシーを見直していく。

【教員と保護者間の連絡のデジタル化】

保護者との各種連絡等についても、クラウドサービスを利用している。

例えば、児童生徒への連絡やアンケート配信については保護者連絡システムを用いることで即自的な安否確認や、校務支援システム連携が可能であったり、連絡文書、アンケート調査を配信にも利用したりするなど、調査の分析に時間をかけられるようになった他、紙媒体からの脱却が進んでいる。

また、懇談等の日程調整にもクラウドサービスを用いている学校も多くなってきており、教職員だけでなく、保護者にとっても、利便性が高くなってきている。

今後は、クラウドサービスの利用を充実させ、より多くの学校で実施できるよう、啓発していく。

【その他】

ペーパーレス化や働き方改革の観点から、FAXや押印を原則廃止できるよう学校の文書の発出方法等を見直していく。

【校務DX化に向けたロードマップ（目標年次設定）】

本市は「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の得点率による目標値を定めていき、経年比較を行っていく。（R5：388.7点／38%）

同時に、以下の①～④内容について教育DXに係るKPIを踏まえ、ロードマップに目標値を記す。

- ①「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」得点率
- ②FAX・押印の原則廃止に係わって
- ③校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃に係わって
- ④クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進に係わって
- ⑤次世代の校務システムの導入に向けた検討に係わって

| | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 |
|----------------|--|-------|---|--|--------|
| ① 得点 (率) | 409点 41% | 45% | 50% | 55% | 60% |
| ② |  通知表・進路関係書類等に関わる押印 不用の学校（目標値 R7：100%） | | | | |
| ③ |  1. 児童生徒情報：住民基本台帳より一括アップロード 2. 出欠席の校務連携：保護者連絡システムにより実施（目標値：R7 100%） | | | | |
| ④ |  クラウドサービスを活用した各種アンケート 調査の実施 （目標値 R8：100%） | | |  職員会・各種研修における、オン デマンドの実施（目標値 R10：80%） | |
| ⑤ |  セキュリティポリシーの改定 （R7：完成） | |  次世代校務支援への移行（目標値：R8：100%） ファイルサーバのクラウド化（目標値 R11:100%） | | |